

# コミュニティ・スクール委員会だより

発行者：にしみたか学園コミュニティ・スクール委員会 会長 岩本 伸一郎

## 見聞き特集①

## 合同熟議！

CS委員会では、コロナ禍までは、毎年夏休みに三校の先生方、保護者、地域の方と合同熟議を行ってきました。はてその熟議とは一体何か？というのを、コロナ禍の中で取り組んだ、今回の合同熟議で感じました。文部科学省の資料では、こんなふうに説明されています。

「熟議」とは、多くの当事者による「熟慮」と「討議」を重ねながら政策を形成していくこと。政策を形成する際、①多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、②課題について学習・熟慮し、討議することにより、③互いの立場や果たすべき役割への理解が深まることと、④解決策が洗練され、⑤個々人が納得して自分の役割をはたすようになる、というプロセスのことを言う。

CS委員会では、委員会の最後に、時間をとって熟議を行っているので、熟議には慣れており、その日の課題への様々な立場からの提案が出てきます。解決策の素晴らしさと同時に、委員のみなさんが持っている、地域や教育への思いや、やってみようという意気込み、対話の端々に浮かび上がってきて、次の委員会の方向性を考えるきっかけになったりして、個人的には面白かったです。

教育長へのインタビュー（91号参照）をした時にも出てきましたが、CS委員会は、あるべき社会を見据えながら、みなさんそれぞれの想いを集めて信頼関係でつながっていただくの場であり、熟議はそれを実現するツールの一つではないかと感じさせられました。

CS委員会 評価部 中山裕之さん

久しぶりに対面で行った合同熟議で先生がたと直接会話をしてみると、「にしみたか学園で育てたい児童・生徒像」を具現化する為に、授業や行事に様々な工夫をされているなど感じました。コロナ禍で感染症そのものより子どもたちの心に与えた影響が大きく、そのケアで苦労されているという話も聞きました。

政府は行動制限を解除しつつありますが、子どもたちを取り巻く環境が以前の形に戻るには、もう少しかかりそうです。

少しづつ再開したイベントで子どもたちを見てみると、アクションプランが、にしみたか学園に関わる皆の道標になってくれればと強く思います。

井口小 広重 秀樹先生

アクションプランについて、「児童生徒が目標を設定してどのようにして達成しているか」をテーマに話し合いました。小学校と中学校でも小学校同士でも、取り組み方に違いがあることが分かり、参考になりました。また学校で目標を立てているということが分かり、家庭にはあまり知らされていないことが分かり、学校と家庭が児童生徒の目標を共通理解しておくことの必要性を感じました。

井口小 松下 悠太朗先生

この度、初めて合同熟議に参加しました。普段なかなか話すことのできない地域・保護者の皆様、3校の教職員という様々な立場の人が一堂に会し、子どもたちについて話す場は大変貴重なと感じました。様々な視点のお話を聞くことができ、教員1年目の私にとって、とても充実した時間となり、勉強になりました。ありがとうございました。



二中保護者 岩本伸一郎さん

3年ぶりの対面での合同熟議に参加しました。「にしみたかアクションプラン」をもとに、学校、地域、保護者それぞれの立場でどう取り組んでいるのかをお話ししましたが、どちらかというと、ここ数年でのコロナ禍の中でどう工夫して取り組んできたかという内容が多かった印象でした。マスクをする中で表情がわからない、休憩中も騒いでいけない、給食は黙食という制限の中、児童・生徒には授業での積極的な発言、行動を求めることはとてもかわいそうにも感じています。保護者の立場としては、もっと児童・生徒の一人一人の個性に個別に向き合って対応して欲しいという気持ちがありますが、先生の立場としては、クラス全体を見なければならず、一人一人の時間がとれない中バランスをとり工夫をしている発言をきくことができ、先生方の苦勞を知ることができました。

二中 大森 拓先生

8月26日（金）、にしみたか学園3校の小中学校とPTA役員・CS委員の方々と、合同熟議を行いました。テーマは「にしみたかアクションプラン」の進捗状況を学校・家庭・地域の視点から振り返り、今後に向けて取り組めることの検討です。

初めて合同熟議に参加した私にとって、和気藹々とした雰囲気の中でも、子どもの成長を第一に考えた上での付度のない意見が交わされていることが何より印象的でした。

コミュニティ・スクールで勤務する一教員として、家庭や地域の皆様が味方でいてくださることを心強く思うと同時に、学校教育という側面から子どもの成長を支えるプロフェッショナルでありたいと気を引き締める契機となりました。



二小 原田 克行先生

今回、対面式での合同熟議に3年ぶりに参加させて頂きましたが、とても有意義な機会でした。普段、保護者と担任として子供を通じた話し合いをするのとは違い、合同熟議で地域の人たちと教育についての考えを話し合う機会は貴重な経験となりました。地域の人たちの思いや考えを直接聞けることで、学校と地域のつながりがさらに緊密になることと思います。特に、本校では各行事の前に「にしみたかアクションプラン」をもとに、子供たち一人一人にめあてを考えさせ、取り組ませています。学校と地域、保護者の方が熟議によって作り上げられたにしみたかアクションプランがあるから、地域と学校、保護者が一体となって学校行事や教育活動全般に取り組んでいるのだと実感できました。

西多世代交流センター 石川卓さん

近い場所になりながら学校の先生方とお話しすることが普段無く、大変貴重な機会を頂きました。現在学校でどのような取り組みをしているのかを知らただけでなく、多世代交流センターでの取り組みや大事にしていることもお伝えするとても貴重な時間となりました。

先生方とお話を重ねる中で、学校と「じどうかん」とで方法は異なっても、にしみたかの地域の子どもの「本気」に大人も「本気」で応え、子どもたちを「本気」で育んでいるという点で共通していると感じました。

また多世代交流センターのもつ、学校でも家庭でもない、第3の子どもたちの居場所（サードプレイス）としての役割を改めて考えるきっかけにもなりました。さらに地域に根ざした多世代がつどえる場所になるよう、地域の皆さんや学校と手を携えながら取り組んでいきたいと思っています。



にしみたか学園  
ホームページ

本紙はコミュニティ・スクール委員会コミュニケーション推進部（CS 委コミ推部）が企画編集しています。CS 委員会にご意見・ご質問・ご相談などありましたら、メンバーまでお気軽にお寄せください。

# あささんネットって何？

コミュニケーション推進部が、あささんに聞いてみた！



コミュニティ・スクール委員会は、基本的には学校に関することを「協議」する機関（学校運営協議会）として運営されています。そのため、学校に対する具体的なサポートや金銭を伴う行事などに直接関わることには制限があります。そこで三鷹市では、今年度からそうした活動をしやすいするため、コミュニティ・スクール委員が中心となった任意団体を設立するモデル事業が始まることになりました。にしみたか学園は、この団体の名称を「あささんネット」としました。あささんネットは地域と学校をつなぐ役割を担っていきたくて考えています。この地域にある団体が、学校を結節点としたスクール・コミュニティの中でスムーズにつながって、お互いが連携して活動しやすくするお手伝いをしていきたいと思っています。と言われても、実際にどんなモノなの？というところを、あささんと話して行ければと思います。



どうも。井口小・二小、二中のにしみたか学園のキャラクターあささんです。

どうも。コミュニティ・スクール委員会コミュニケーション推進部の亀井です！  
今回は、あささんと「あささんネット」についてご紹介させていただきます。

## 地域のつながり

亀井：ねえねえ、あささん。っていうのも「あささんネット」って、どうやってご紹介したらよいですかねえ？

あささん：そうですね、結構難しいんですけどねえ。あ、12月24日に実施したイベント「あささんフェスティバル」そのものが、もう「あささんネット」そのものだったんですよ。

亀井：確かに！

あささん：あささんフェスティバルに参加された方は、分かるかもしれませんが、地域のいろんな方が集ったんですよ。

亀井：そうそう、青少年、交通対、住民協議会、町会、子ども会、PTA、おやじの会、スポーツ関係団体、音楽関係団体など、たくさん！  
今回は、音楽団体が多かったですが、地域のいろいろな団体の発表の場になればと思います、あささんネットのキックオフイベントとして企画しました。

あささん：あささんネットは、まさに、そのように地域を舞台に活動をしている様々な方がつながりながら、地域をより良くしていく。そのための団体です。

亀井：新しいようで馴染みのある。馴染みのあるようで新しい。そんな感じですね。



## 不安は減らしてワクワクは増やして

亀井：本当にこの地域にはいろんな方がいらっしやいますもんね。

はい、そのようなつながりを活かして、不安なことは減らしていく。ワクワクすることは増やしていく。そういうことをしていくことができれば最高です。

亀井：不安なことは減らしていく。ワクワクすることは増やしていく。確かに。すごい大事なことですな。

## 不安を減らす活動の具体例

亀井：不安なこと、生活をしているといろいろありますよね。僕は、子どもたちの交通事故が不安でしたな。特に1年生の事故は、全国でも多いんですよ。

あささん：そうですね。にしみたか学園では、子どもたちが登校するときに交通安全を見守ってくれている地域の方々もいらっしやいますよね。

あささん：そうですね。挙げればきりが無いほどに、いろんな方から支えられています。

亀井：本当にありがたいことです。思い返してみると、本当に多くの方に支えられていますよね。行事などで人手が足りないときなども、コロナが流行してその対応がまだ定まっていなかったときも、多くの方が腕まくりをしてくれていました。

## わくわくを増やす具体例

亀井：さっきあささんが言っていたワクワクを増やしていく。これもすごく気になります。やっぱり自分たちの地元で、やってみたいことがやれたり、そもそもやってみたいことを思いいたり。そんなふうになったら最高ですよ。

あささん：ほんと、そうですね。亀井さんは、なにかやってみたいことってありますか？

亀井：盆踊りがすごい好きなんですけど、なかなか練習する場所がなかったりもしますし、活動を知ってもらう機会がないんですな。だから、学校の教室をお借りして、盆踊りの練習をしたいです。

あささん：地元の文化を知る機会にもなりそうですね！

亀井：あささんは何かありますか？

あささん：焚き火したいですね。みんな。自然と仲良くなりそうですね。

亀井：いいですねえええ。ぜひ！

あささん：亀井さん、あつという間に我々の持っている枠が終わってしまいです。でも、子どもたちも、保護者の方々も、不安なこともちろん、未来にむけてこういうことが地元でできたらいいなというものがあれば、ぜひお気軽にお声をいただけたら嬉しいですよ。

亀井：ですね！すぐには難しいかもしれませんが、みなさんと一緒にワクワクする街をつくっていききたい。そう願っています。

それでは~~~~~！



あささんネットについて詳しく知りたい方、一緒に何かしたいと思われる方は、まずは身近なCS委員や、各学校の副校長先生にご連絡ください。CS委員は、各学校のPTAや、団体から派遣されていますので、PTAや地域団体でも構いません。また、あささんネットの事務局にも直接ご連絡いただけます。✉: info@asasannet.com



メール用QR

※紙面の都合上、「コミュニティ・スクール」を「CS」と略することがあります。ご了承ください。